

## 2022 年度 日本地理教育学会第 72 回総会・大会 (0712ver)

### ●大会会場： オンライン開催

参加には事前登録が必要です。

参加申し込みフォームリンク (※切 : 8 月 16 日(火))

<https://forms.gle/EBMLX5A56LdjUuPi8>

※申し込まれた方に ID を送付します (大会への参加には ID が必要です)。

※総会への参加は会員のみ。参加申し込み者のうち、会員のみに ID を送付します。

※評議員会については関係者のみに別途、案内をお送りします。

### ●日程： 2022 年 8 月 20 日 (土)・21 日 (日)

20 日 (土)

評議員会 (12:00~13:15)

シンポジウム (13:30~16:00)

総会 (16:10~17:10)

出版文化賞表彰式 (17:10~17:20)

21 日 (日)

一般発表 (準備開始 9:50) 第 1 会場・第 2 会場

午前 10:20-12:00

午後前半 13:00-14:00

午後後半 14:10-15:10

研究グループ公開研究協議会 (15:20-17:20, 第 1 会場)

### ●シンポジウム (8 月 20 日 (土) 13:30~16:00)

#### 1. テーマ:

始まった「地理総合」-WEB アンケート・カリキュラム調査の最終集計結果報告と授業実践の実際-

#### 2. 趣旨:

2022 年度新学期から高等学校において必修教科目「地理総合」の授業が始まり、日本地理教育学会では、2022 年 2 月例会において、日本地理学会地理教育専門委員会と日本学術会議地理教育分科会学校地理教育小委員会が共同で実施した「地理総合」にかかわる WEB アンケートとカリキュラム調査の集計中間報告 (第 1 報) を受け、全面実施を目前に控えた「地理総合」カリキュラムの実態や現場教師が抱える悩み・課題を明らかにするとともに、教育現場への有効な支援のあり方を議論してきた。「地理総合」が始まって 1 学期が過ぎ、教育現場では、新科目に戸惑いながらも、新たな視点からの地理教育実践が展開され、一方で上記の WEB アンケート・カリキュラム調査の集計と分析が完了したところである。そこで、本年度のシンポジウムでは、WEB アンケート・カリキュラム調査の最終集計・分析結果報告に加え、実際に「地理総合」の授業を担当されている先生方の授業実践をご報告いただくことにより、「地理総合」が抱える問題点とその克服に向けた視点を検討する。

#### 3. シンポジウムプログラム:

司会進行: 秋本弘章 (獨協大)・竹内裕一 (千葉大・名誉)

13:30~13:35 趣旨説明

- 13:35～14:05 報告①：浅川俊夫（東北福祉大）・今野良祐（筑波大附属坂戸高）・阪上弘彬（千葉大）・高木 優（神戸大附属中等教育）・山本隆太（静岡大）「WEB アンケートの集計結果報告と分析」
- 14:05～14:35 報告②：志村 喬（上越教育大）・小橋拓司（兵庫県立加古川東高）・石毛一郎（千葉県立成田国際高）・後藤泰彦（千葉県立佐倉高）・泉 貴久（専修大松戸高）・中村光貴（筑波大附属高）・松本穂高（茨城県立竹園高）・秋本弘章（獨協大）「高校教育課程における『地理総合』『地理探究』設置の実態—千葉県・兵庫県のカリキュラム調査を中心に—」
- 14:35～14:50 報告③：井上明日香（神奈川県立希望ヶ丘高）「地理総合における地球的課題の教材化—大豆生産を事例とした授業から—」
- 14:50～15:05 報告④：岩橋嘉大（兵庫県立明石高）「生活文化の多様性を理解する『地理総合』における授業実践—『国際理解と国際協力』における東南アジアと西アジア・北アフリカの比較を通して—」
- 小休憩（10分）
- 15:15～15:25 コメント：佐藤奈美恵（宝仙学園中・高）
- 15:25～16:00 総合討論

## ●一般発表（8月21日（日）10:20～15:10）

1. 準備 09:50 開始

2. 一般発表プログラム（第1・第2会場）

### 第1会場

- 10:20 101 佐藤浩樹（神戸女子大）：地理的原風景を描いたメンタルマップにおける場所体験の傾向とその考察—児童期の身近な地域における場所体験の人間形成的意味に関する考察(2)—
- 10:40 102 小谷恵津子\*（玉川大）・植田真夕子（津島市教育委員会）・(株)帝国書院研究室：概念形成に着目した地図活用能力の系統性—小学校社会科における試案の作成—
- 11:00 103 飯塚耕治（埼玉県春日部市立幸松小学校）：公立小学校登下校時における水害対策と各種地図の活用—埼玉県春日部市内の小学校における過去の水害事例か—
- 11:20 104 菊地達夫（北翔大）：大学授業におけるフィールドワーク学習の実践と効果
- 11:40 105 櫻井美砂（日本女子大・院/日本モンテッソーリ教育総合研究所附属『子どもの家』）：入門期におけるプログラミング玩具を活用した地図学習の研究
- 12:00 昼休み
- 13:00 106 酒井喜八郎（南九州大）：SDGs 観光教育としての小学校社会科地理の授業設計—身近な宮崎からグローバルスケールまで—
- 13:20 107 吉田 剛（宮城教育大）：小中高一貫地理教育カリキュラムの近未来構想—「地理的概念の順次性」を軸とした場合—
- 13:40 108 河本大地（奈良教育大）：小中高の地域学習に関する大学生の記憶が示唆するもの—「小中高一貫地理教育カリキュラム研究」に向けて—
- 14:00 小休憩
- 14:10 109 三橋浩志（文部科学省）：地理教育における「地域づくり学習」の体系に関する考察
- 14:30 110 田部俊充（日本女子大）：ヨーロッパ世界地誌教材の開発—スウェーデンからみるヨーロッパ理解を中心に—
- 14:50 111 清水大介（東京都立八王子東高等学校）：科学地理オリンピック日本選手権記述式問題（WRT）の傾向と特徴—地理教育との関連を意識して—
- 15:10 終了 ※15:20 から研究グループ公開研究協議会の会場となります。

## 第2会場

09:50 準備

10:20 201 平澤健太郎(東京学芸大)・牛垣雄矢(東京学芸大):JR立川駅周辺におけるラーメン店集積地区の特徴—いわゆる「激战区」について—

10:40 202 山口幸男(群馬大・名誉):地理教科書の用語から見た都市学習の課題

11:00 203 吉田裕幸(鷗友学園女子中学高等学校):教科横断型授業の実態と課題—高校地理担当教員へのアンケート調査から—

11:20 204 村上 慧(暁星中・高/名古屋大・院):新学習指導要領において教科書のコンテンツはどう変化したのか—「地理A」と「地理総合」の重要語句の比較分析を通して—

11:40 205 高橋 裕\*(私立豊島岡女子学園)・川久保典昭(茨城県立日立第一高校)・澤木考耶(東京都立豊島高校)・井上明日香(神奈川県立希望ヶ丘高校)・長谷川直子(お茶の水女子大)・柴田祥彦(東京都立三鷹中等教育学校)・宇根 寛(お茶の水女子大)・浅川俊夫(東北福祉大)・井田仁康(筑波大)・矢野桂司(立命館大):「地理総合」開始後の高校社会科教員のニーズに関する予察的調査—地理総合オンラインセミナーの参加者アンケートから—

12:00 昼休み

13:00 206 小倉拓郎\*(筑波大)・中村洋介(公文国際学園高)・山内啓之・宋 佳麗(東京大・院)・田村裕彦(田谷の洞窟保存実行委員会)・小口 高(東京大):リモート環境を活用した高大連携授業の実践—地理総合を想定した地形・GIS学習の事例—

13:20 207 後藤 賢(東京都立福生高等学校):地理総合における、ゲーミングを用いた防災教育の開発—教師が実施困難であるとする「将来の居住地選択」の教材化に向けて—

13:40 208 山本隆太(静岡大):ハザードマップ、防災タイムライン、ナッジの組み合わせによる水防災教材の開発

14:00 小休憩

14:10 209 山崎庸右(奈良県立郡山高等学校):校外学習による現地滞在経験が与える災害認識及び避難ルート把握の効果—高等学校の地形図精読授業における学級間比較から—

14:30 210 青柳慎一(久喜市立栗橋西中学校):中学校における防災を視点とした地域学習の授業開発—中学校社会科地理的分野「地域調査の手法」の実践報告—

14:50 211 吉田和義(創価大):中学校社会科教育法におけるフィールドワークを取り入れた地域調査の指導

15:10 終了

## ●研究グループ公開協議会(8月21日(日)15:20~17:20)

第1回小中高一貫地理教育カリキュラム公開研究協議会(代表:吉田 剛<宮城教育大>)